平成26年度 NO.9
公立みつぎ総合病院
緩和ケア病棟

風を感じて

患者さまによりそって

緩和ケア病棟師長
谷満茂子（たにみつしげこ）

公立みつぎ総合病院の緩和ケア病棟が開設され、今年で１３年目を迎えることができました。私の緩和ケア病棟の８年間の勤務の中でたくさんの患者さま、ご家族に出会い、さまざまなことを学ばせていただきました。

入院して来られる患者さま、ご家族が私たちスタッフに求められることは、「痛みやしんどさなどの苦痛を和らげてほしい」「穏やかな日常を過ごしたい」「出来れば住み慣れた我が家に一度帰ってみたい」などが多いと感じています。それらのニーズに対して、しっかりと対話が出来る関係作り、苦痛症状の緩和を図ることはとても重要だと考えています。

苦痛が緩和されてくると、次第に患者さまの表情や言葉などに変化が現れ、本来の自分らしさを取り戻されるように感じます。「毎日、散歩がしたい」「美味しい物が食べたい」「自慢の料理をみんなに食べさせてあげたい」「大切なことを家族に伝えておきたい」「家族や友人に手作りの作品をプレゼントしたい」など、いろいろな思いを口にされる場面を経験してきました。

私たちは、患者さま、ご家族の心からの言葉にしっかりと耳を傾け、その意味することを感じ取り、タイミングを逃すことなく、多職種で協同し支援していけるよう努力しています。「こんなの無理よね」「こうするしかないよね」と、自分の価値観や人生観を押し付けるのではなく、「こうしたら出来るんじゃないかな」「こんな方法もあるね」など、主人公である患者さま、ご家族に合わせて、私たちの発想を変えていくことが大切ではないかと思っています。これからも、患者さまに寄り添い、その人がその人らしく生き抜くことができるよう援助させていただきたいと思っています。

緩和ケア病棟スタッフ

今後とも、「みつぎの緩和ケア病棟へ入院して良かった」と思っていただけるよう、患者さま、ご家族のニーズに合わせた、質の高い看護・ケアが提供できるようスタッフ一同努力していきたいと思っています。

どうぞ、これからもよろしくお願いいたします。

緩和ケア病棟多職種紹介

社会福祉士
古西（こにし）　裕子（ひろこ）

小さな灯として

緩和ケアへの受診や相談窓口として、様々な医療機関・施設などと連携を図り、患者さま・ご家族と関わっています。相談窓口としてできることは限られており、制度などの紹介はできても、実際の手続きや制度を利用する際も患者さま・ご家族にいろいろなことをお願いすることも少なくありません。

せめて様々な負担を背負っている患者さま・ご家族の心を照らす小さな灯になれるよう今後も努めていきます。

主任作業療法士
臂（ひじ）　美穂（みほ）

笑顔を支えたい

患者さまからの様々なご希望に沿って関わらせていただいています。

先日、患者さまからお子さんへのプレゼントとして、革細工を作成するお手伝いをしました。どんな形にしようか、何色にしようか、喜んでくれるだろうか、内緒にしておこうか、など笑顔で会話しながら、「明日も続きをしたい」と毎日楽しみにされていました。完成した作品は、世界にたった一つの思いのこもったプレゼントになりました。これからも患者さまのしたいことを、少しでもお手伝いできればと思っています。

主任薬剤師
小畠（こばたけ）　地余子（ちよこ）

私と緩和ケア

薬剤師として勤め始めて間もないころ、がんの痛みの治療に有用で使いやすい薬が日本で初めて発売されました。「がんの痛みって薬で抑えることができるんだ。」薬剤師が医療の現場で役に立てる、そんな気がして、力が湧いてきたのを覚えています。私の緩和ケアへの入り口でした。

今、緩和ケアに携わる中で、痛みの緩和は薬物治療だけでは叶わないことが多いように感じます。痛みのない笑顔にたくさん出会えるよう、心にも寄り添える薬剤師でありたい…そう思っています。

主任管理栄養士
日野（ひの）　公恵（きみえ）

思いにつながる食事をめざして

お一人おひとりの「食べたい」という思いを大切にし、患者さまやご家族に食事についてのお話を行い、安心して食べれるよう心がけています。

緩和ケア病棟の食事は、栄養補給だけではなく、楽しみの一つでもあり、症状や嗜好、量、口腔内の状態（噛む・飲み込む）などに配慮して提供しています。

イベントのおやつ作りなどを通して、喜びや笑顔につながるよう関わっていきたいと思います。

新スタッフ紹介

理学療法士
吉村（よしむら）　淳（じゅん）

緩和ケア病棟の配属となり１年が経過しました。患者さまと接する中で、「病気になっても自分でできることは自分でしたい」と考えておられる方が多い様に感じています。そのため緩和ケア病棟へ入院中の患者さまが日々の生活を送るうえで、安全で負担も少なくできるような環境調整を心がけています。また、緩和ケア病棟から自宅へ退院される場合には、不安なく過ごして頂けるように自宅まで同行することもありました。これからも希望に沿えるように努めていきたいと思います。

看護師
寺田（てらだ）　雅子（まさこ）

平成２６年４月に緩和ケア病棟に配属となりました。緩和ケアに関心がありましたが、実際に勤務するのは初めてであり、日々新たな学びの連続です。全人的にケアを行っていく為には、数値で測れない部分での関わりも大切だと感じています。患者さま・ご家族がよい時間を過ごしていただけるよう、これからも看護師として、人間として感性を磨きたいと思います。

看護師
近藤（こんどう）　円香（まどか）

緩和ケア病棟に勤務して１年になります。患者さまと接していると、それぞれに人生があり、苦痛もさまざまで同じという方がおられません。一人ひとりから学ぶことが多く、症状緩和のケアも「こんな方法があるのか」と教えていただくこともあります。また、患者さまだけでなく、家族の方の不安や苦痛も日々の中で感じます。患者さまが家族の方と共に、穏やかで良い時間を過ごせるよう、お手伝いしたいと思います。

ボランティアだより

「ボランティア活動を通して」

（ボランティア　掛（かけ）　恵子（けいこ））

月一回の壁面構成と月二回の生け花を担当しています。壁面構成では室内に居ても季節の移り変わりが感じられる様に、三人でアイデアを出し合いながら飾り付けをしています。生け花では心が和むように、明るく優しい色合いにと心掛けているのですが、なかなか思うようにはいきません。でも楽しんで生けています。時々患者さまと話しながら、時にはご家族の方とご一緒に。以前小学生の女の子と一緒にお花を生けましたが嬉しそうに生けている姿にこちらまで幸せな気持ちになりました。ボランティアをしながら、実はこちらの方が癒やされているんだなと感じます。ホスピスボランティアを始めて８年になりますが、自己満足にならない様に、常に目線を患者さま、ご家族に向け、笑顔で接するという初心を忘れず、これからも時間の許す限り、また体力、気力が残っている間は、続けたいと思っています。

病棟のひとコマ

満開の桜

たん生日
おめでとう
ございます
♬

Happy Birthday

2014 リレーフォーライフ
みんなで歩きました

神社で音楽鑑賞会

♬雪だるま作ろ～

緩和ケア病棟基本方針

(1) 病病連携・病診連携に基づいた在宅ホスピスと施設ホスピスをシステムの両輪とし、さらにボランティアなど地域全体で支える独自の地域に密着した緩和ケアシステムを構築する。

(2) その人らしく充実した時間を送っていただくために、早い時期から在宅・施設において柔軟で継続的な関わりを持つ。

(3) 患者さま・ご家族の満足と安心を得られるように、質の高い・心のこもったサービスの提供に努め、患者さま・ご家族の声や第三者評価などにより、ケアの質の維持・向上を目指す。

平成25年4月1日改定
平成22年4月1日制定

緩和ケア理念

(1) 患者さまの生き方や意思を尊重した緩和ケア

(2) 早い時期からの継続的な緩和ケア

(3) 在宅および施設における総合的な緩和ケア

(4) 保健・医療・介護・福祉の連携による質の高い緩和ケア

(5) 地域に密着した地域緩和ケア

平成25年4月1日改定
平成14年4月1日制定

★ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

公立みつぎ総合病院
http//www.mitsugibyouin.com
〒722-0393 広島県尾道市御調町市124番地
TEL0848-76-1111 FAX0848-76-1112
緩和ケア病棟直通 0848-76-1328